

第2回「寒河江市学校施設整備計画」地域説明会 質疑応答

会場：西部地区公民館 研修室

日時：令和4年10月12日（水）19時30分から21時00分

参加人数：14名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐（兼）係長

学校再編整備室 学校再編整備係主任

（発言者A）

教育長の最初のあいさつで、今日の説明会は何を説明して、我々に何を求めるのかわからない。市議会を傍聴して、議事録、教育部局が取り組んできた内容を讀ませていただきましたが、周囲の人に聞きますとよくわからない。誰が決めているのか、自分たちが知らないところで決まっているという話がありました。市議会の中で、教育長の発言の中には、考え直す気があるのかよくわからない、今日の資料の中でも、一部変更を視野に入れながらと書いてありますが、今日説明いただいた児童数の推移だとか1校案、2校案のメリット、デメリットは一貫してみていくと原案の方が優れているという受け取り方もできるわけです。このままでは、教育の基本方針の中に示してある未来を切り拓く人づくりと言っているわけですが、小学校中学校の再編整備の問題というのは、地元の担い手です。その人たちをどう育てていくのかという貴重な議論をしなければならないと思っているわけです。3つ指摘したいと思います。一番のこの問題は、この問題に取り組む執行部のみなさんの姿勢の問題があると思っております。本市に引っ越してきている若い人からもおかしくないのかという疑問の声があります。他の市や町の検討と比べるとだいぶ違うようです。私の経験からしても、パブリックコメントをやった時期、あの時期がふさわしいのかどうか。パブリックコメントは2000年ころの法改正でできた制度です。そのときには、地方分権という大きな検討課題がありまして、この地方分権をする中で3つでできたわけです。1つは説明責任の行使、2つ目は、情報の開示、透明性の確保、3つ目は、住民参加、協働ということです。諮問委員会では、住民代表を入れたり一般公募委員を入れて議論したかもしれませんが、諮問委員会の答申をよく読みますと結論逃げていないですか。十分に諮問に答えていない。今度は当局の中で、案としてパブリックコメントでもとめるのはおかしい。諮問委員会で結論が出せなかったら、その時点でパブリックコメントしてもおかしくない。そして、答申案としてまとめるのが筋です。説明会の中では、きまったことですからという回答をされている。これは市民の意見を聞かない何ものでもない。このやり方はおかしい。さらに、答申の中で十分な検討されていない、今日の資料の中には、一般の市民から意見が出たので、それについて理解を示したように触れていますが、学校は地域に支えられて校区というエリアの中でコミュニティ形成されて、作りだされてきたものではないかと思えます。例えば、醍醐小の場合、日和田の田植えおどりがあります。白岩にも似たものがたくさんあるわけです。学校は、

将来の地域の担い手を義務教育を通じて、育てていく、そういう大きな役割をしていくわけじゃないですか。検討がずさんだと言っておきたい。それから、手続きや方針です。決定的なのは8月5日号の市報です。あの市報は、市民の意見を聞きません、私たちのスケジュールで突っ走りますと宣言しているようなものです。それで、みなさんから意見を聞きますとか、一部変更も視野に入れて検討しますというのは、どうなのかという感じがしてならない。もっと大事なのは、一部変更も含めて、グループ討論をどんな風に活用するんですか。さらには、この結果をどんなスケジュールで検討するんですか。それを一切示していない。おかしいじゃないですか。第1回の説明会で一巡しておきながら、あれだけ異論をとなくて、反対意見が出たのに、きちんと答えなくて、諮問委員会の中で検討済みですからというのをパブリックコメントの回答にしている。これもおかしいです。今後、どう進めるのか。今日のグループ討論を含めて、どういかしていくのかははっきり示すべきではないですか。そうでなかったら大勢集まっているのに何をやっていいのか。何が問題なのか、わからないじゃないですか。最初に説明責任を行使していないと言ったんです。ご回答お願いします。

(教育長)

今、出されたことは、ご意見として伺いました。そして、今日の説明会については、前回の説明でご意見をいただきましたので、検討案として示させていただいたわけです。そしていろんなご意見を出していただきたい、そして、こうした会でのご意見、ほかの公共施設とか学校の跡地の問題を教育委員会だけでなく、市全体として考えていかなければならない部分もあるわけです。そうした部分についても関係各課と連携しながら検討していくということです。本日の説明会については、今、出されたようなご意見も含めて、この点はこうしていったらいいんじゃないかといったご意見なども出していただければと思います。

(発言者A)

令和4年度に用地買収を進めているというような記述もありますが、これだといまやろうとしていることと一貫性がないじゃないですか。

(教育長)

一貫性がないということはどういうことでしょうか。

(発言者A)

スケジュールでなんら示されてないということです。

(教育長)

スケジュールについては、こうした説明会で意見をいただいて検討を進めていくわけです。学校の跡地の活用や他の公共施設のあり方とも連動しながら、学校の施設も考えていかなければならないということです。いつまでに案を作るといというのは、今申し上げることはできません。これから検討していくということです。まずは、今回の説明会でご意見をだしていただきたいと思っています。

す。いろいろな説明会やネット等でいただいたご意見等も含めて、最初の計画を一部変更することも考えながら、検討してくとお答えしているということです。

(発言者B)

最初の説明会ですので、根本的なことを申し上げたいと思います。さきほどもありましたように市民と一緒に考えていこうというお気持ちがあるということですか。そうすると 説明会の資料はホームページとかででていますか。

(教育長)

ホームページにでております。

(発言者B)

グループ討議をするといった説明会の内容出ていますか。書いてないですね。5ページのところに。この資料をホームページに載せている。こちらに参加して、意見を交換してやることも考えております、ということはどうですか。

(教育長)

そういう表示はありません。

(発言者B)

それがですね、一緒に考えるということだと、きまったらからいいんじゃないか、もうきまっているんだからと、ほとんどのみなさんがおっしゃっている。今の案は、教育委員会が作った計画は決まっているが、市の案とするために作業を進めており、まだきまっていないんだよ。と私はお話していますが。決まってないから変わる可能性があるのは、いまからきめることに変わる可能性があるとか、一緒に考えようという気持ちを市民のみんなにもってもらおうという言い方なのでしょうか。大切だと思います。ここにこられない方、最初から決まっていると思う人はここにこないです。では、意見交換会を何をするんですか。たくさんの方がいらっしゃると思います。こういったアナウンスをするのか、どこかで一緒に考える、きちんと市教育委員会から示していただいて、それから説明会をして、討論会、意見交換会をして、その場で答えられることは答え、みんな考えましょう、というのが進め方として大切だと思います。これをやれば、つぎ、みんな考える。そうすると、みなさんはどう考えますかと、少しまとめなきゃいけないとか出てくると思います。一方的に話をきく、検討するではなくて、話し合っ一緒に考えましょうと言葉にしたり、ホームページにだしていただければ、変更するとか、微妙な言い方ではなくて、一緒に考えましょうと出していただければと思います。そういう姿勢だと思います、姿勢を示していただきたいと思います。みなさんいかがでしょうか。以上です。

(教育長)

今お話ししましたように、また、この資料にも書いたように、こういった会でいろんなご意見をいただいて、そうしたことを検討して、一部変更も視野に入れて

検討していくというのは、おかしい文句ではないと思います。一緒に考えようという姿勢について、アナウンスのしかたが足りないとすれば、ホームページにも資料を載せていますということをもっとアナウンスして、一緒に考えましょうと、もっとわかりやすく示していきたいと思います。

(発言者C)

教育委員会として白紙撤回する考えがあるかどうか。いろいろ説明がありましたが、一部修正する、ロードマップは示されず。市民の意見を聞いて反映するかどうか疑問をもっている。市役所の一般質問も視聴しましたが、教育委員会の計画案であって、この計画ではないと答弁されておられたので、白紙に戻す姿勢に立つべきではないかと思います。次に、グループ討論ですが、違和感があるわけです。ホームページでも小学校PTAの方々のグループ討論も見させていただきました。あれは参加した方の意見であって、あたかもみんなの意見としてまとめるのはおかしい。はじめて見直し案をだされたけれども、本来ならこのことについて教育委員会の方に直接聞きたいわけです。それが自分たちで議論してください。これも変だなと思いますよ。みなさん、聞きたいことがあると思うんですよ。それに答えるのが、この会の趣旨かなと思います。

(教育長)

聞きたいことがあるという点については、今、このようにご質問を受けているわけですが、また、PTA役員の方の意見があたかもすべての意見であるというふうな記載はしておりません。集まっていたらご意見を出していただいた内容はこのようなことでしたと載せております。

(発言者C)

まとめで。グループ討論の発表を聞いて、教育長がこういうことでありましたとまとめるのはおかしいと思いますよ。

(教育長)

まとめるのがおかしい。

(発言者C)

それぞれの意見だもの。

(教育長)

いろんな意見をそのまま出していますけれども。

(発言者D)

ここにきて見ず知らずの人とグループ討議をやって、どれがベストかベターかなんて、ここにきている人たちを都合いいように、こういうことしてくださいという事前の説明もなく、そして、それぞれのグループで出たものを発表してもらって、あたかもこの大勢だったとまとめられること自体、やり方がまったく

おかしいと思います。最初から意見を聞くということであれば、様々な意見もできると思いますので、意見をまとめるのは難しいのかなと思います。選択肢も恣意的ですよね。先ほどもありましたが、まちづくりと連動した他の公共施設とか付け足してみたり。何かこうするといいいことあるよなんて言うことも示されているんですけども、3つの案が示されているのですが、その他にも、検討案DとかEとかだしていいのかもしれませんが、こういったことを言っていること自体が、私は検討する受け手の方としては、ちょっとどうなのか疑問に思います。ついでに申し上げますが、策定までの流れとして書いてあるのですが、いろんな意見が出たということで、パブリックコメントは30人から50件で、そのうち48件が反対意見だったというのはなかったわけですよ。都合悪いところは出していない。資料の8ページ、市民への周知、市議会、教育長から答弁いただいているので、3月もありですよ。そうしたことが抜けているとか。この間、複式学級、少人数学級、いろんな意見でていますが、少人数学級、議会としても全回一致でそれは国に意見書を提出しているわけで、議会の意見も尊重していただきたいと思います。複式学級を回避したいということは、確かにあるかもしれませんが、少人数学級をさんさんプランで33人にまとめていくんだなんていうのは、少人数学級を大事にしていこうという議会ですら逆行するのではないかと。少人数学級を尊重すべきと議会の中では議論しておりますので、これは答申案がでたときに違う方向だったんだなあということですが、今言っているのは、そういうことです。あと、様々書いてありますが、質問ご意見をQRコードで読み取って書いてくださいというのは、これはこれで結構ですが、ここではいろんな意見を聞く立場ということで、時間の中でそういうことを示していただきたい。あとで思いついたらわかりますが、それもどうなのかなと思ったので、それについて回答いただきたいと思います。

(教育長)

グループでお話いただいて、こういう案がいいよねとか、ここはこうした方がいいんじゃないかなど、いろいろなご意見いただきたいとお願いしたところで。少人数学級というのは、10数人とかの学級ということなのではないでしょうか。県で行っている「さんさんプラン」の制度ではなくて、もっと十数人の学校等もそのまま残してほしいというご意見ということですか。また、選択肢が恣意的だとおっしゃられましたが、例えば、これまでのご意見で、西部地区での小学校の存続を強く希望するというご意見も多くありました。そうしたことも含めて案を示して、その方が意見もやすいと思ひまして、1つの計画案だけではなく、検討案を示させていただいたということです。いろんな意見を出していただいて、それをお聞きするというつもりであります。

(発言者D)

説明会で協議するのは初めてだったので、スケジュールもないので、寒河江小学校などでそんなことをやられたら、見ず知らずの人とできないのではないかと不安がありますから、ご注意いただきたいと思います。事前の説明がないと、そういうことをいきなり参加して言われても動揺すると思います。3月議会の

議事録確認していただきたいと思います。記述抜けておりますので、追記いただきたいと思います。さきほど言った恣意的と言いきすぎかもしれませんが、1校案、2校案、メリット、デメリットを示しているのは前進だと思うのですが、1校案、いろんな面があるけれども、財政のところをもってくるというのは、今日は財政課長とか市長部局の人はいないでいいですか。財政的にどうなんだと聞いても、教育長はお伝えしますとしか言えないと思うのですが、そんな理由で記述されても、われわれ質問しづらくなります。そういったところを聞きたくてきたと思うのですが、もう1つ、変更もありうるというのは、どの点を変更するのかを示してもらえるのかなと思ってきたのですが、違うと、これからみなさんの意見を聞いて考えますは、だまし討ちじゃないですけど、期待外れというか、今まで変更ありというのを示していないのは、いかがなものかなと思います。

(教育長)

周知がたりないというご意見がたくさんありました。そうしたことからホームページにも載せて、こういう状況ですよとお示しして、検討していくという姿勢を示しています。今回、グループでお話しいただいて、意見を出していただいて、それをお聞かせいただいた方が、より意見を聞く機会になると思って、こういった会を開催させていただいたわけです。白紙に戻すということに関しては、計画としては、3月に教育委員会で議決しているわけです。しかし、その計画については、様々なご意見をいただいているわけですので、1部変更も視野に入れて、例えば、小学校を2段階の統合とすると小学校でも中学校でも統合を2回経験する子どもさんもある。だから令和14年度の1回統合ということも含めて考えながら検討していきまると先ほど申し上げたとおりです。

(発言者B)

今こうして話をしておりますと、先に進むのは大変なのかなと。提案ですが、さきほどから周知不足を反省されている。案内をすることには、ホームページに資料を載せまるとか一言も書いてない。こういった会議をする、意見交換会をしますありません、10月5日号にも間に合うわけです。みなさんから来ていただいて、いろんな人のいろんなお話を聞きたい、であれば10月5日号にも追加で出すとか。いろんなことをやること自体が一緒に考えようと、そこには説明がこのとおりですとご意見等への回答を予定しております。われわれも何をやるのか、ホームページも見ませんでした。最低限、市報にこういった案のことを案内し、どこを見てください、この会には、説明会のあとに意見交換会もありますときちっと書いていただいて、ここにきて、自分の意見を言う方、お持ちの方も、まとめて頭を整理してお話するのは難しいのかなと。そういったことも考えますと、この際、提案でございます、意見交換会は中止と、参加者として申し上げたいと思います。いかがでしょうか。

(教育長)

これまでの説明会でも、ご意見をというときに全員がお話できるわけではないですよ。ですから、小グループでいろいろ出していただいて、参加された方

の意見をなるべく多くお聞きしたいと考えたわけです。それは、意見を聞かないということにはならないし、より多くのご意見を聞くために考えたわけですが、それがおかしいということでしょうか。

(発言者D)

無理じゃないですか。

(教育長)

個別に意見とだしてもらった方がいいということですか。

(発言者B)

いろいろな方がいるでしょうし、グループの中でそういったことの話をしたら、どういうふうになるのかと、どういった状況になるかと、そういったことも想定しながらだと思います。

(教育長)

グループではこういった意見が出されましたと出していただければいいわけで、なにもグループで決めるわけではありません。これまでの説明会でも発言される方は多くはなかったわけです。なかなか発言もできなかった方もいらっしゃるということもあって、こういった形でと提案させていただいたところですが。今日はこんな時間でもありますので、質問、ご意見をいただいておりますので、本日につきましては、いろんなご意見を伺うこととしたいと思います。

(発言者E)

高松小で説明会を聞かせていただきました。そのときは、こういう計画で決まったからということでしたが、今回は、一部変更もあると聞き、少し変わったな、良かったなと思っているのですが、今日の説明会途中から聞かせていただいたのですが、前の説明と似たようでほとんど同じで、中学校は1校案の方がいいなという説明なような気がするんですね。その端的なところは、陵東と陵西が統合した場合は、今度、そこに新しい学校を建てるので、小学校の用地を新しく求めなければならないという説明がありました。用地は、西根小、三泉小、醍醐小、陵西中もあるのに、なぜ新しく求めなければならないのかと思ったところです。そうすると、やっぱり1校ですすめたいという意図を感じたんですけども、なぜ、陵東と陵西を統合した場合、小学校の用地を新しく求めなければならないのか、まず1つ目の質問です。この前、高松小学校であった場合、引っかけたのは、1校を2校にした場合、オープンにして学区編成をした場合、学区編成が難しいから1校というご説明があった。これは面倒だから、教育で面倒だからじゃなくていいのはあるのかどうか。この2点が質問でした。あと、残念だと思うのが、市報でこの会をするということを見逃してしまいました。たまたま隣で会合があったので、学校説明会ということで会合が終わってから参加させていただいたのですが、この前のようにチラシがあってこんな予定で全学区で説明しますよということがあれば、もっと集まる人がいたのではないかと思ったところです。

(教育長)

1点目については、今の計画では陵東跡地と計画しているので、そこが使えなくなると、新しいところを考えなければならない。というのは、西根小学校、三泉小があるじゃないかということですが、西根小学校は浸水警戒地域でもあるので、別の土地の方がいいのではないかとということもあります。そこで土台をあげていまの校地をとということも検討の一つでもあるのかもしれませんが、学区編成について、めんどくさい云々と言っているのではなくて、あり方検討委員会でも、これまで新しい学校ができたときに学区の編成替えも行われましたが、いろんな地域の反対もあった。そうしたことも踏まえて学区の編成替えはしないで、今の小学校区毎で統合を考えるべきだという答申があったので、それに従ってこういう計画を立てたということです。ですから、例えば2校案にして、将来的には子どもたちの人数の差が大きくなる。そのときには、学区の編制替えをして2校案の方がいいのではないかと、そんなご意見が多数あれば、ありがた検討委員会ではこういう意見だったが、いろんな説明会ではこういった意見もいただいたので、それも含めて検討するということです。あと、お知らせについては、前回の説明会では市報に載せないのはおかしいという意見もあり、なるべくはやくということで9月20日号に掲載したところです。また、これから子どもたちを学校に入れる保護者のみなさま、保育所、幼稚園、こども園の保護者のみなさまにもチラシを配っております。小中学校の保護者のみなさまには、さくら連絡網でこの会についてご案内をしたところです。

(発言者F)

今日参加して、1回目の高松小学校でも参加して、今日参加して感じるのは人数が少ないということです。1回目の説明会で、さまざま注文も出した。意見を申し上げた。それを受けて、2回目の説明ということ、そこで出されたことについて、具体的に見直しするのは、これとこれとだということがあるのではないかと期待をしてきました。そして、教育、学校の施設整備計画とは、学校をどう作るかだけではなく人づくり、学校教育というのは人づくり、まちづくりなのよ、そういう観点からすると地域の人をもっともっと参加して、説明を受けるといったことではないと心配になってくる。例えば、寒河江市で振興計画の説明会とか、下水道などをするとき、市民に説明をするわけです。各地域に向いて説明するわけです。そうするとき、市の特別職である町会長さんなどを通じて、こういう説明するので、極めて重要だから参加して聞いてくださいという対応をこれまで寒河江市でやってきました。なぜ参加しないのか。こういうことも町会長さんが地域の問題を市にあげる、市のことを地域に伝えるという特別職の6つの任務の中の1つですので、教育委員会が町会長連合会あたりに話をして、説明会するから市民の参加をよろしくお願いいたしますという手立てをすべきだと思いますが。この間、しているのかどうか。そうするともっと参加してもらえるのではないかと。そこが不思議でならない。先ほどもありましたが、グループで話し合いをするという、教育長は期待をして、何人かの人じゃべりよりもみんなの声反映されるという説明のようですが、実際、市民のそういうことが今現在、慣

れているのか。慣れていないと率直に思います。そういうことが、前もって周知されるべきだと思いますが、ここが足りなかったというのは、受け止めてほしいと思います。3つ目ですが、説明資料はあるのですが、次第書がない。時間配分はなっています。これが極めて重要です。グループ討議のことが載っているわけですから、代表者が報告するまでも、それがないというのは不親切というか、今日の位置付けが残らない。画面にはでましたが、そういうことについてどう思っているのか。これからも第2回の説明会が続くわけですから、その点についての見解もお聞かせください。

(教育長)

今後の説明会の進め方について、次第を準備したいと思います。

(発言者F)

今日参加した人にも。最初画面に表示された次第書。印刷して渡してください。

(教育長)

進め方について、グループで話をさせていただいて、その中から出していただいた方がより多くの意見を聞けるのではないかと思ったのですが、なかなか慣れていないということで、意見が出づらいということであれば、今日は、1回目と同じようにご質問やご意見をいただいて答えるという形になりましたが、そうしたことも含めて、2回目以降の説明会では考えていきたいと思います。説明会の1回目の時には計画として策定したものについて詳しく説明しましたが、先ほどから申し上げているように、ここ違うのではないか。中学校は2校の方がいいのではないかなどご意見いただいたわけです。そこで2回目の説明会では、これまで出された意見を受けて、検討案として示し、ご意見をいただきたいのですが、いかがでしょうか。それでは足りない、やり方がわるいということでしょうか。

(発言者F)

教育委員会としての施設整備計画は出された。しかし、これは、あり方検討委員会の中では中学校については、1校、2校の両論併記になった。そして、市内の4か所で説明会をして、そののちに教育委員会で決定するはずだったが、コロナの関係で2か所は説明会しないで、教育委員会で決定したのは、これは手続き上問題だと。住民、主権者は市民ですから、諮問委員会で両論併記できたら、市民の意見を聞いて、決定すべきであった。手続き的に誤りだから答申をされた段階まで戻すべきだといった。そういうことについて、今回2回目の説明会ではふれられていない。意見はでたけれども、パブリックコメントにも出しましたが、つまみぐいして、2回目は説明だと思うんですね。これにはこういう答えというのがないわけですから、そういう意味ではどうなっているか、全部白紙ではなくても、最低でも中学校1校はだめだと申し上げておりますので、そうしたことはどうなのかと思います。

(教育長)

説明会のときはその場でお答えし、ご説明申し上げているわけです。それについて、不十分だというご意見もあるのかと思います。また、今回すべてのことについてまた再度ということではなくて、特に先ほど説明しました(1)から(4)、①から⑨のご意見や質問が多かったわけです。そこで、それについて説明しているということです。白紙にという点については、あり方検討委員会で両論併記であったわけですが、最初のあいさつでも申し上げたとおり、総合的に検討して、計画では1校案としたわけです。それに対しても反対意見をいただいているわけですので、今回は、1校案、2校案についてより詳しい資料もだしながら、ご意見をいただいて、ご意見を聞くということでこの会をさせていただいているということです。

(発言者F)

今のことで確認ですが、中学校については、A、B、C案を検討しろと投げかけられているのか、中学校の問題については、1校と教育委員会ではだしていませんが、1校はとりさげて、みなさんで2校にするか、3校にするか問いかけているのか、確認のためお尋ねします。

(教育長)

案Aは、計画として春からご説明申し上げているもので、それが一つあるわけです。しかし、いろいろなご意見をいただき、2校案でというご意見もあったということです。また、よりよいものにしたいということから、答申にもあった公共施設との複合化ということも考えられるのではないかと示させていただいたわけです。いろいろなことを考えながら、よりよいものにしていきたいというスタンスです。1校案を取り下げるということではなくて、計画は計画として出しました、その計画に対して反対意見もありました。そこで、検討案として示していますので、様々な面からご意見をくださいとだしているわけです。

(発言者A)

グループ討論をどうしてもやられるのであれば、工夫が必要だと説明したいのですね。グループ討論が使われるのは、研修の場面ですね、出席者の理解を深めるための手法です。都市計画を説明するときにも、グループ討論の手法が使われますが、結局、主催者の側で、検討したグループのなかで、これはと思うものをつまみぐいするために使うのです。場合によっては、ガス抜きのためにつかう、不平不満を聞いたというアリバイ作りのために使うものです。だから、この場ではふさわしくない。第1回の説明会をやって、2回目の説明会の時には、第1回目の説明会で出た意見に対してこう考えますとかこう変更します、方針内容を説明する場面であって、これを無理やりグループ討論でやるのであれば、いまだされている諮問の途中で論点を明確にしてやるのが正解だと思います。もう一つ建設的な意見をいいますが、例えば、中学校の再編の話、小学校の2段階の話、そうしたときには、むしろこれはパネルディスカッションです。1校案賛成の人、2校案賛成の人、それぞれ主義主張を唱えさせて、意見対立させて、壇上でやら

せて、会場から質問を募って、その方が議論を深まると思います。あるいは、1対1でなくてもいいです。中間の人を入れてもいいですよ。様々な方法があるのに2回目の説明会で最初にやらなければならないグループ討論をもってきたのは間違いですよ。そこをよくご検討いただきたいと思います。

(教育長)

先ほども申し上げたとおり、グループ討論については、説明会にはふさわしくないという意見をいただいておりますので、2回目からの説明会では形を変えてとと考えていきたいと思います。

(発言者G)

1回目の説明会も出席させていただいて、いろいろ心配なことも話させていただいたのですが、中学校を1校に統合した場合なのですが、文科省のホームページも見ますと、メリットもありますが、大規模ならではのデメリットもたくさん書いてあったなあと思うのですが、デメリットに対する対策、どのように対応していただけるかが保護者としては一番心配なので、そういう対策的なものも載せてもらえれば、納得できることとかもあると思いますので、資料に載せていただいた方がいいかと感じたところです。醍醐小の先生は、複式学級ならではの良さをいってくださる。子どもの考える力が伸びますというように。その辺も複式の良さを伝えてくださっているので、複式の良さもありますので。保護者にも説明をしていただいたが、学校単位で説明していただいた方が、心配している保護者もいると思うのです。方向性が定まらないままなので。また説明会を行っていただけるのかなと感じたところです。

(教育長)

周知不足というご指摘をいただいております。いろいろな機会をとらえて、説明していきたいと思います。また、子どもを学校に通わせている保護者の方への説明もしたいと思います。保護者向けの説明会を検討していきたいと思います。複式学級については、説明会でもご意見をいただいて、その時にもお話してはいますが、複式学級が悪いわけではないですし、私も良さも十分わかっております。そうしたことも踏まえながら、良い点、課題、両方あるわけですよ。そうしたことも考えて、例えば、令和8年度の統合ではなくて、醍醐小さんは6学年とも複式になる可能性があるわけですけど、複式学級にもいい点はたくさんある。そこで複式学級にはなりますが、それも選択肢の1つとして考えたところです。また、デメリットや課題の説明については、資料等も考えながらやっていきたいと思います。

(発言者F)

何度も同じようなことといわれるかもしれませんが、中学校を一つにするこのデメリットとして、高松小でも申し上げましたが、いろいろな災害に対してリスクを避ける、回避をするのは極めて重要です。そうしたときに、中学校1つというのは、何かあったときに対応できなくなるので、複数にしておくのは極めて

て重要だと思います。陵南中のところは地盤が悪いのはみなさんご承知のとおりかと思いますが、道路、いまでも波うっているなどもあるので、複数にすべきだと思います。デメリットのところにかかれてもいけないので言っておきます。子どもの数が減っているというのは、ここに住んでいる人の責任ではないです。教育委員会だけの対応ではないと思う。市全体、国策とあいまって、何が問題なのか、なぜ生徒が少なくなったのか。地域の差がでてきているのかということを経別の観点から調べなければならない。そうしないと、そこに住んでいる人だけが大変な状況になっていくということですので、きちんと申し上げたい。それらに対応する教育委員会だけではなく、市全体と連携してやっていかなければならないと申し上げておきたい。

（教育長）

市全体として考えていかなければならないと我々も認識しておりますので、市の各課と検討していかなければならないと思います。